

令和3年度 中央区立有馬小学校 自己評価報告書

中央区立有馬小学校 住所 中央区日本橋蛸殻町2-10-23

校長 清水 晶子

児童数 663名 学級数 20学級 教員数 33名 職員数 33名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1

○児童の確かな学力を身に付けるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

評価項目：①学び合いの場を意図的に設定した有馬スタイルでの研究授業・授業観察

②算数科においては、3年生以上「ステップ教室」を開催

評価指標：①9月末までに全教員が2単元の有馬スタイルでの学習指導案を作成、研究授業・授業観察で指導・助言を実施、授業の改善を図る。

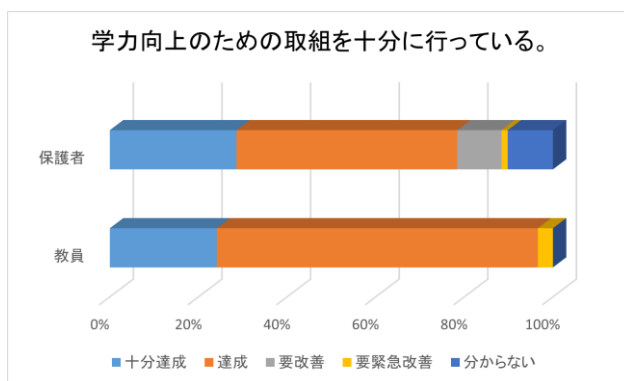
②ステップアップ教室は、複数の教員で年間30回以上実施。前学年の診断シート正答率80%を目指す。

③「学校は、個別指導やステップアップ教室、サマースクール等、学力の向上のための取組を十分に行っている」に「当てはまる」と回答する保護者85%を目指す。

達成状況：①については、全教員が、有馬スタイルでの学習指導案を作成し、授業観察、研究授業、研究発表を通して、授業を実施することができた。研究協議会では、授業観察の視点を明確にし、協議をしたことで授業改善を図ることができた。

②については、放課後のステップアップ教室、夏休みのサマースクール、合わせて30回実施。3年生から6年生の診断シート平均正答率は82.4%で達成できた。

③「学力向上のための取組を十分に行っている」については、「当てはまる」と答えた保護者が78%で目標を達成できなかった。教員は、「当てはまる」と96%答えている。取組を明確に示すことができなかったこと、児童や保護者の必要性に対応した取組が十分にできなかったことが考えられる。児童一人一人の課題を把握し、実態に合った学びに取り組んでいく。



重点目標2

○児童の課題解決能力、情報処理能力の向上、学習の定着の徹底を図るためにICT機器の有効な活用を推進する。

評価項目：①タブレット端末を活用しての授業改善

②日常的なタブレット端末の活用場の設定

評価指標：①有馬スタイルの指導案にICT機器の活用場面を明記し、研究授業・授業観察において実施。

②月1回以上、タブレット端末の操作方法・効果的な活用について教員研修を実施。

③毎日1回はタブレット端末を活用、毎週火曜日の朝の会はクラスルームでの活動やドリルパークの取組。

達成状況：①どの教科、単元においてもICT機器を活用し、授業を展開した。特に、導入段階での資料提示や考える場面での情報収集に役に立ち、児童の深い学びにつなげることができた。

②タブレット端末の研修を放課後や長期休業を活用して計画的に実施した。また、必

要に応じて教員同士が学び合うなど積極的に取り組む姿が多くみられ、授業に活用することができた。

- ②毎日1回以上活用し、児童は様々な場面で柔軟なアイデアを活かして、活用している。教員は、タブレット端末の活用を通して授業の質の向上にも役立っている。

### 重点目標3

○他者への思いやりや規範意識を育てるために「有馬スタンダード」の徹底や交流活動の充実を図る。

評価項目：①交流活動（ペア活動、保育園・幼稚園、地域）の充実。

- ②学習規律を明確化した7つの約束「有馬スタンダード」の定着化。

評価指標：①交流活動は月1回以上実施。

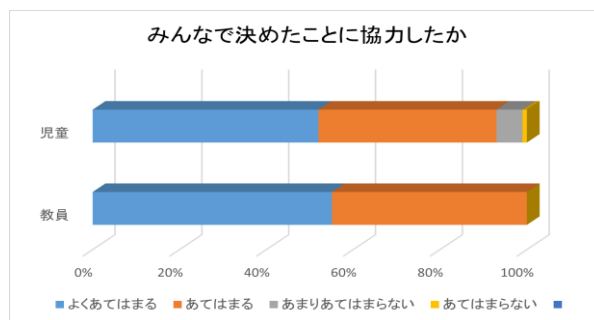
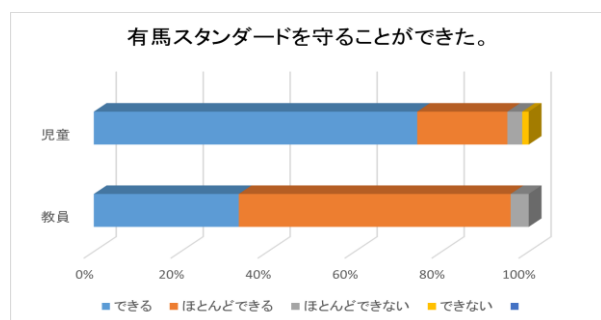
- ②年2回5月、9月に児童にアンケートを実施。「有馬スタンダード」の全項目において「守られた」と回答する児童80%の達成を目指す。

- ③児童アンケート「みんなで決めたことに協力しましたか」に当てはまると回答する児童95%を目指す。

達成状況：①ペア学年を決め毎月ペア活動を行った。コロナ禍の中、多くの言葉かけをしなくても良い活動を行ったり、タブレット端末を活用したりするなど工夫した活動が見られた。

- ②「有馬スタンダード」児童・教員共に達成率95%と、全教員が年間を通して、学習規律について同じ基準で児童の指導に当たるなど、継続的に児童に意識させてきた結果と言える。

- ③「みんなで決めたことに協力しましたか」達成率93%と、概ね達成できたと言える。本校の研究で長年取り組んできた学級会の話し合い等を通して、よりよい合意形成ができる力が身に付いてきていると言える。



### 家庭や地域への連携

- ①学校経営計画の公表、年2回の児童・保護者による学校評価アンケートの実施、学校評価の分析・公表により教育活動の改善を図る。

- ②学校公開、保護者会、学校だより、ホームページ等を活用し、積極的に情報を発信し教育活動の理解を深める。

- ③タブレット端末を相互連絡のツールとして活用し、家庭との連携強化を図る。

達成状況：①保護者からのアンケートから本校の課題を把握し、機を逸することなく教育活動の改善を図った。

- ②学校の情報を積極的に発信した。今後も保護者や地域が必要な情報を発信していく。

- ③タブレットを活用して、児童の出欠を確認したり、保護者会を開催したりするなどして家庭との連携を図った。今後もより便利なツールとしてタブレット端末を積極的に活用していく。